

「平成28年度文部科学省後期寄附フォーラム」  
事例発表者について

①国立大学法人京都大学

京都大学では、京都大学生自らが行う研究内容に対する応援プログラムとして、『京都大学学生チャレンジコンテスト（SPEC）』を平成27年度から実施。

SPECに公式選定された研究内容は、京都大学HPで当該取組に対する寄附を募り、集めた寄附金は助成金として大学生に支給。

平成27年度は6件の研究内容が公式認定され、実施者（実施団体）の中には、合成生物学の世界大会（iGEM（アイジェム））で受賞を受けたものも存在。

②千葉県立銚子商業高等学校

銚子商業高等学校では、3年次に課題研究の授業を設け、生徒がチームに分かれて様々なテーマに取り組んでいる。

平成26年度には、地域活性化をテーマに経営難が続く地元路線・銚子電鉄を応援するプロジェクトを立ち上げ、結果として、クラウドファンディングの手法により、脱線車両の修理代資金（約500万円）の寄附集めに成功。

プロジェクトは後輩に引き継がれ、電車内での名産品販売やイベント等での収益金寄附を継続。

③東京学芸大学附属国際中等教育学校

東京学芸大学附属国際中等教育学校は、米国の財団が全米の大学生向けに提供している寄附教育プログラム（『Learning by Giving』（※））米国外実施第一号校として本年9月に選定され、現在、『日本版 Learning by Giving プログラム』を実施中。

本プログラムでは、2学期～3学期の28時限を使い、東京で活躍する3つ分野のNPOを生徒が調べ最も効果的に寄附を活かせるNPOを一つ選び、生徒が実際に寄附することとしている（寄附は本年12月に行う予定）。

（※）『Learning by Giving』

個人としての社会貢献の在り方や可能性について学ぶことを目的とした取組。米国のバフェットファミリーが設立した Learning by Giving Foundation と連携し、同財団が約1万ドルを同財団が選定した学校に提供。資金の提供を受けた学校の生徒等は、社会貢献の概念・NPOの歴史・必要性・寄附の可能性等をワークショップ形式で学んだ上で、実際にどこかの公益法人に寄附することを通じて、寄附の重要性等を学ぶ。